雑誌「医学教育」編集委員会[*1]

鈴 木 淳 一[*2]

学会誌「医学教育」は，ようやく歴史を重ねて21巻，号数6と頁数64は20年前の第1巻の当時と変りないのであるが，内容の充実は飛躍的なものがあると自負している．

会員倍増計画は，学会創立20周年を期して行ってきたが，まだ1,000名にとどかないのは誠に残念なことである．1,000名を突破すれば，「月刊」の夢も実現するのではないか，との期待があるのであるが．

前例にならって，特集のテーマ，連載のテーマを表にした．連載は単行書として刊行する計画がある．

カリキュラム研究会は，この3年間，開催が少なくなった．これを考えてみるのに，本学会は，とくに最近各委員会，各ワーキンググループの活動が活発になってきて，カリキュラム研究会という一般的な活動の基盤の多くの部分が委員会などの方に取られた結果であると考えることもできる．

カリキュラム研究会には歴史的意義があったことを多くの人々は認めるであろうが，このような会の存在は，やはり，自由な発想を育てるためには必要のように思われる．開催の要望が寄せられることを期待している．

---

*1 Editorial Board of "Medical Education"
キーワーズ：「医学教育」，カリキュラム研究会
*2 Suzuki, Jun-Ichi 帝京大学医学部耳鼻咽喉科学教室，日本医学教育学会編集委員会委員長

表 1「医学教育」特集
（第17巻第 5 号～第21巻第 1 号）

第18回日本医学教育学会大会記録
教育方法としての POMR
プライマリ（ヘルス）ケアの卒前教育
態度学習
第19回日本医学教育学会大会記録
医学教育における組織開発
医学教育と情報処理
第20回日本医学教育学会大会記録
卒直後臨床研修
教育者の教育への動機づけ
入学者選抜—変動とさらなる改善へ
第21回日本医学教育学会大会記録
高等教育の評価
病診連携と生涯教育

表 2「医学教育」連載
（第17巻第 4 号～第21巻第 1 号）

(1) 教育媒体使い方シリーズ
10. 科学映画
11. ブロークン・スクウェア・パズル
12. ブレイン・ストーミング
13. コミュニケーションゲーム，またはグループ・プロセス体験
14. ロールプレイ
15. 教室・実習室のレイアウト
16. マイクロティーチング
17. KJ 法
18. BSL (Bed Side Learning)
19. 医学教育におけるコンピュータの利用
20. Simulated Patient
21. 教室・実習室のレイアウト

(2) 保健医療行動科学の体験学習マニュアル
1. アイスブレーキング
2. ティーチイン
3. マイクロラボラトリー訓練
4. 読書会
5. 積極的傾聴法
6. 行動科学技法を基本とした医学概論
7. 医院内職員研修ワークショップ

表 3 カリキュラム研究会（第50回～第55回）

第50回（1986年）（第17巻第 6 号，p. 423-430）
橋本　信也（東京慈恵会医科大学）
青山　英康（岡山大学）
滝沢秀次郎（厚生省）
「WHO/RTTC Intercountry Workshop "Management of Change in Training Institutions" に参加して」

第51回（1987年）（第18巻第 4 号，p. 246-247）
Lyn Robinson(大学生涯教育センター)
堀　原一（筑波大学）
寺島　康（筑波大学 6 年　学生）
大西真由美（筑波大学 6 年　学生）
「McMaster 新構想大学の 担当する 地域医師のための生涯教育」

第52回（1988年）（第19巻第 1 号 p. 11-13）
Zelimir Jaksic (Zagreb 大学)
加我　君孝（帝京大学）
「プライマリ・ケアのための生涯教育」

第53回（1987年）（学会誌に収載なし）
斎藤　和雄（北海道大学）
平野　寛（杏林大学）
「WHO/RTTC Intercountry Workshop "Implementation of Innovations in Medical Education" に参加して」

第54回（1987年）（学会誌に収載なし）
Ivan Damjanov (Thomas Jefferson 大学)
「Confidence Testing in Pathology Education」

第55回（1989年）（第20巻第 4 号，p. 210-214）
Gjuro Dezelic (Zagreb 大学)
Spaso Vulic (Zagreb 大学)
尾島　昭次（岐阜大学）
「ビデオ ならびにコンピューター技術を活用するプライマリ・ヘルス・ケアの生涯教育（JICA プロジェクト）」